

茶道を通して

守口市立第一中学校三年（大阪府）

西本 晴美

昨年の秋、初めて文化祭が行われた。クラブ活動を新型コロナウイルスに左右され続けてきた私たちにとって、多くの人の目の前でお茶を点てることは初めてだった。

私は半東を務めた。お客さんは先生方で、生徒はクラスごとに見学する。お茶会が始まり、ひと通りの会話が終わったところでお菓子を勧めた。生徒の視線はお菓子に集中する。先生は、生徒に楽しんでもらうためか、お菓子を見せびらかすようにして食べる。生徒たちはますますお菓子に夢中だ。

このとき、私は複雑な気持ちだった。お菓子を喜んでもらえて嬉しかったし、お茶会が盛り上がりつつ安堵していた。しかし、みんながお菓子ばかりに気を取られ、亭主が心をこめてお茶を点てる様子を見ている人がほとんどいなかったのが残念だった。お茶会を、おいしいお菓子とお茶を味わえる場だとして考えていないように見えて、その認識は

もったいないと思った。

今思えば、私自身でさえ、茶道を学ぶまでは、茶道は堅い作法をこなしつつお茶を点てたりいただいたりするものだと心の奥では思っていたかもしれない。しかし、茶道部に入部し、様々なお点前や作法を習ううちに、その作法ひとつひとつに意味があり、相手を思いやる気持ちが込められていることが分かった。

一期一会。何事も一生に一度限りの尊いものと思つて大切にする。亭主は客を想つて準備し、茶筌を振る。客は亭主の思いを感じつつ、お茶を味わう。そうして同じ時間を共にすることを大切にする。そういう茶道の姿が私は好きだ。

文化祭で生徒のみんなに私の好きな茶道を感じてもらうことはおそらくできなかった。ただ、茶道は堅いものという認識は薄れたと思う。みんなには、もっと茶道のことを知ってもらいたい。私は茶道の世界のごく一部しか知らないだろう。それでも、私は茶道部で茶道のことを知れて良かったと思つている。

私は幸運にも一年生から部長になれたし、文化祭で半東を務められた。これらの経験も通して、相手を気遣つて行動する力や小さな変化に気付く力がついた。これらの力は決して茶道だけでなく、何事にも活かせる力だと思う。

茶道を通して得られることはきつともつとある。茶道は

日本が誇る伝統文化であると同時に、私たちに様々な力や考え方を与えてくれる大切な存在だ。茶道に出会って好きになる人が増えてほしいと思う。